



関東信越税理士会三条支部長賞

『税金は命をつなぐひとつのバトン』

三條市立下田中学校

三年

長谷川 はせがわ

麗桜 りお

税金は命をつなぐバトンかもしれない。私はそう感じました。私たちは、いつも買い物をする時に、本当のねだんよりも少し多めに払っています。なぜなら、「消費税」があるからです。消費税が私たちの生活に関わり始めたのは、1989年から35年経った今までに3%、5%、8%、10%とどんどん増えています。私は、買い物をする時に、「消費税はいらぬ」と思っていました。また、消費税などを合わせて税金といい、日本の税金はおよそ100種類あるといわれています。主に税金は、消防署や警察署、救急車、ドクターヘリ、病院などの命を助けることのできる場所に使われていることが分かりました。

また私は、消費税などの税金に助けられたことに気づくことができました。私は、生まれてすぐに病気が見つかり、生まれた病院から遠い大病院に救急車で運ばれました。そして、手術が行われ成功しました。何度も入院をくり返したけど、今は3ヶ月に1度の通院になり元気に楽しく過ごせることができています。

「もしも救急車がなかったらどうなっていたのだろうか」や「自分の家の車で大病院に連れて行ってもらっていたら今、元気に楽しく過ごせていたのだろうか」などと考えてしまいます。そのため手術をしてくれた先生にも感謝ですが、税金を払ってくれる人達にも感謝をしなければいけないと感じることができました。また、税金はワクチンや入院費にも使われていて、ワクチンなども命を助ける1つの方法だと思います。なので税金は、命をつなぐひとつのバトンになっていると思います。もし税金がなくなったらどうなってしまうのか。メリットは、ものを少し安く買えることですが、デメリットのほうがたくさんあると思います。例えば、火事のときに消火活動ができず周りにまで被害を拡大させてしまったり、助かる命が助からなかったりすることがあるかもしれません。なので私は、税金を払うことをいやがらずにしっかり払えるような人になりたいです。

そして、税金は命をつなぐバトンかもしれないと思った時から、税金についての考え方が変わりました。前までは、「税金なんていらぬ」と思っていたけど、私のような病気を持った人が助かったりすることや、少しでも重症化を防ぐことができるものなんだという考えになりました。買い物に行ってお金を払うときは、「みんなが助かりますように」と思いながら払っていきけるようにしたいです。そして、1人でも多くの人々が助かるように毎日願っている生活したいです。また、みんなが「税金は命を助けることのできる1つの方法なんだ」と知ってもらえるように伝えていきけるようにしたいです。病気の子を助けるために、私たちができるとは税金を払うことなので、払うときは応援の気持ちを含めて払っていきけるようにしたいです。

